

2011年3月期 決算説明会質疑応答



日 時：平成 23 年 5 月 12 日（木） 10：00～11：00

場 所：兜町平和ビル 2 階セミナールーム（社団法人日本証券アナリスト協会主催）

質疑応答要旨

質 問	回 答
Q. 北京泰徳製薬からの配当金収入が重要な資金源となっているが、今後とも配当によるキャッシュインは見込めるのか？	A. 北京泰徳製薬の業績や資本政策等により金額が変動する可能性はあるが、既に今期予算にも組み込んでおり、今後とも定期的なキャッシュインを見込んでいる。
Q. 平成 22 年 3 月期の創薬事業の売上高の内訳および平成 23 年 3 月期の売上予想の内訳は？	A. 平成 22 年 3 月期は、主に北京泰徳製薬とのステルス型ナノ粒子共同研究開発契約締結による一時金収入と原薬販売による収入。平成 23 年 3 月期は、主に PC-SOD 吸入製剤のライセンスアウトまたは共同研究開発による一時金収入を見込んでいる。
Q. 中国における AS-013 のフェーズⅢ開始の見込みは？	A. 現在北京泰徳製薬では、リポ PGE1 が主力商品であり、売上也堅調なことから、その次世代医薬品にあたる AS-013 については、市場のニーズ等を見極めるためのマーケティング等を行っており、現段階で具体的な試験計画は未定とのこと。
Q. 上場維持のための審査申請の内容、取り組み状況は？今後の会社存続にどのような影響があるのか？	A. 現在審査申請に必要な主幹事証券就任について証券会社との交渉を行っている。審査の内容等は明らかではない部分もあるが、現時点で必要と思われる準備は行っている。上場維持の如何を問わず、今後とも会社の存続は充分可能な状況であるが、多くの株主様の御支援にお応えするためにも、上場維持について、全力で取り組んでいる。
Q. 今期の研究開発費は 350 百万円を見込んでいるが、今後とも研究開発に関する年間予算は同程度と考えてよいか？	A. 開発段階により投資額の増減はあるものの、平均すれば、每期同程度の予算になるものと思われる。